

建築ジャーナル誌 12月号に **白鳩幼稚園** 掲載されています。

12月号はこども施設特集です。



掲載雑感:

“線路脇に建つパッシブで「颯然」とした園舎”……………

敷地の特性や完成した園舎の特徴を表したタイトルに今回「颯然」という熟語を用いた。普通の解釈では風がさっと吹く様となるが、自分の中では「颯爽とした自然体＝端正な様」との思いで、日射対策を目的とした縦ルーバーが連続する白い外観の写真が全てである。本文にも記したが建替え計画で最も時間を費やしたのは、必ずしも広くない敷地内で500人を超える園児全員、工事期間中とはいえ仮設建物による授業を一切行わない園の強い方針のもと、二期にわたる新園舎配置プランの策定であった。終始安全対策と向き合った3年だったが完成した写真だけをみると何事も無く、まさに颯然と建っている様である。掲載された他の園舎と見比べると、木質素材を中心としたおとなしい色使いと直線的なプランで、ある意味子供らしさが少ない園舎に捉えられがちだが、その真意はジャーナル誌をじっくり読み込んで頂ければと思う。



縦線による園舎のイメージ、折り紙の形によるシンボリックな外観



上:1階開放的な見出し部、正面の壁面、右に隣接する仮設遊場 下:2階、木質素材内装の1階開放部

**線路脇に建つパッシブで「颯然」とした園舎**  
**白鳩幼稚園** | 設計・監理：アーアンドシー設計  
 八尾市内の近鉄大飯線久宝寺口駅から徒歩3分。1952（昭和27）年間園の歴史ある幼稚園の老朽化と鉄道沿線敷地固有の騒音対策に配慮した新園舎である。園長ならびに副園長とともに計画を練った結果、1期・2期工事により、19の保育室のこどもたち全員に仮設プレハブの経験をさせない道を築定した。  
 隣接する鉄道高架の騒音対策から1-2階地下を駆使させたプランを提案し、園舎との関係よりすべての保育室は直前に配した。また、園長自身が作成した自然シミュレーションにより、日射への対策から新深さ1.8mと奥行450mmの縦ルーバーを800に取り付けたシンボルで「颯然」とした装いの外観は、予想を上回る客すま意図となった。園庭につきながり1階地下全面に取り付けたアルオープン折れ付（イスターカーテン）の緑陰空間、さかすか、壁の内地面無垢材造園とともに、天井には自然素材オスを工場塗装した同産第一号の有孔シタペペヤで仕上げた木質空間で包まれた園舎は常に私の基本である。  
 カラフルなカラーで仕上げたこども施設が建築雑誌で紹介されているが、氾濫するそれらの色は大人の思惑であって、こどもの感性上好ましくはないとの記事を見つけた。然もありません！かと。（石田俊二郎）

所在地 大阪府八尾市東町2-8-23 構造・形態 RC造  
 建築主 学校法人久宝寺学院 地上2階、面積1階  
 用途 幼稚園 延床面積 3,654.5㎡  
 定員 350名 総投資額 3,063.8万円  
 発注担当 日建機構 竣工 2017年3月  
 施工 日本建設 監理 野村北雄



幼稚園